

国民
民主党

こく
みん

Democratic Party For the People

国民民主党プレス編集部

愛知13区版

〒446-0058

愛知県安城市三河安城南町
1-11-5

電話
(0566) 70-7122

office@oniken-web.jp
https://www.oniken-web.jp

定価 1部 200円(消費税込み)
年間購読料 3,000円(送料含む)

けんすけタイムズ



Kensuke Times

今回のタイトル

終盤国会の攻防

愛知13区：安城・刈谷・碧南・知立・高浜

衆議院議員

おおにし健介



1. 国民民主党、そろりと始動

世論調査では、相変わらず支持率低迷が続いていますが、そこは選挙の洗礼を受けていない政党なので、ある程度はしかたがないと思います。地道な活動を通して、国民民主党らしさを国民に知っていただくしかないと思っています。

玉木代表は「隣のうどん屋がまずいまずいと言っても、自分たちがよりおいしいうどんを出さなければ、客は来てくれません。」と述べ、「対決より解決」と訴えています。

国民民主党は、予算委員会がモリカケ一色ではなく他の重要問題の審議が行えるように、「ロッキード問題に関する調査特別委員会」のように特別委員会を設けて、集中的に真相解明を行うよう議長に申し入れを行いました。一方、厚生労働委員会での働き方改革法案の強行採決の時には、与党による横暴な委員会運営には強く抗議するものの、他の野党のように委員長のマイクを奪うなどの暴力には訴えない方針を採りました。また、ギャンブル依存症対策はカジノ導入とは関係なく前に進めるべきであるとの考えから他の野党が反対する中、賛成をしました。さらに、一年半ぶりの開催になった党首討論では、モリカケ問題には触れず、米国の自動車関税 25%の問題などを中心に外交・通商をテーマに挑みました。マスコミは、これを「野党の足並みの乱れ」と揶揄するかもしれませんが、我々は、中道政党としての「こくみん」らしさを行動や政策に表すことで、それを国民に訴えていきたいと思っています。

私は、国民民主党では、幹事長代理として、選挙をはじめ党勢拡大にあたるとともに、厚労・文科・消費者部会の部会長として政策決定の責任を担っていきます。



2. 働き方改革法案の衆院通過

25日、与党は、厚生労働委員会での働き方法案の採決を提案してきました。「70年に及ぶ労働基準法の歴史的な大改革」であるにもかかわらず、提出法案は8本もの法案を束ねたものであり、対政府質疑は、わずか30時間程に過ぎず、うち4時間37分は、いわゆる「空まわし」であり、審議が尽くされたとは到底言えません。しかも、その日の理事会で厚労省は、2割のデータが不適切だったとして削除された労働時間等総合実態調査にさらにミスが見つかったことを報告しました。「議論の出発点」として労政審に提出されたデータに「底なし沼」のように異常値が見つかる状態を与党も重く受けとめるべきだと思います。

働き方改革は、電通で過労死した高橋まつりさんの悲劇を「二度と繰り返さない」ということから始まったにもかかわらず、安倍政権は、24時間連続勤務も合法となり、「定額働かせ放題」の高度プロ

裏ページに続く

フェッショナル制度が抱き合わせで提案しました。過労死したNHK記者、佐戸美和さんのお母さんは「(高プロは労働時間の把握が困難なため) 労災申請さえもできなくなり、死人は増えても過労死は減る」と述べています。

我々は、高プロ削除、裁量労働制の運用の厳格化、勤務時間インターバル義務化等を内容とする対案「安心労働社会実現法案」を提出しましたが、政府・与党は最後まで高プロ削除の求めに応じることはありませんでした。



3. モリカケ疑惑と日大アメフト会見

安倍内閣における悪質な「論点ずらし」答弁は、ネット上で「ご飯論法」と呼ばれています。「ご飯論法」とは、「朝ごはんは食べたか」と聞かれて、朝食にパンを食べていても「ご飯は食べていません」と答えるようなごまかしのことです。こうした不誠実な答弁は、質疑を混乱させ、野党の貴重な質疑時間を奪っています。

その典型は、柳瀬元秘書官の「今治市や愛媛県の関係者とは記憶の限りお会いしていないが、加計学園の関係者とは会ったことがある」という答弁です。しかし、この答弁も翌日、愛媛県知事が柳瀬秘書官の名刺を公開したことで、虚偽の疑いが出てきました。

さらに、愛媛県が参議院に提出した文書には、加計学園理事長と安倍総理が平成27年2月25日に面談し、獣医学部新設について説明を受けたことが記されており、昨年1月20日まで「加計の計画は一切知らなかった」というこれまでの総理の国会答弁と矛盾が生じています。

また、佐川理財局長が「廃棄した」、「(探したが) なかった」と答弁していた森友学園との交渉記録が出てきました。その上、財務省では、国会答弁と辻褄が合うように資料の破棄を指示していたことも明らかとなっています。

「国会はモリカケなんかより重要な議論をしろ!」という声があります。私もそのとおりだと思います。

ただし、国会では、毎日、多くの委員会が開かれており、法案や他の重要課題についても議論が行われています。マスコミがモリカケばかりを報道するので、テレビや新聞を見た国民は多くは、国会論戦はモリカケ一色と誤解されているのだと思います。そして、追及を避けたい与党のプロパガンダに騙されてはいけません。

また、大臣や官僚が国権の最高機関である国会や国民に対して、虚偽の答弁を行ったり、重要な文書を隠ぺいしたり、改ざんするようでは、他の重要な課題について議論することができません。こんな問題が一年も続いているのは、嘘やごまかしを続ける与党の責任です。

そこで、国民民主党は、他の重要な議論の妨げにならないように、調査特別委員会という形で別に真相解明の場を設けることも提案しているのです。

さらに、国民民主党は「公文書改ざん防止法案」を議員立法で国会に提出しています。

口の周りにあんこが付いていても「餅を食べていない」と言い張るような国会論戦が、日大アメフト部の危険タックルに関する会見にも伝播してしまっているのではないかと思うと暗澹たる気持ちになります。



Profile



- ▶昭和46年4月13日生まれ ▶京都大学 法学部卒
- ▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選
- ▶「地盤・看板・靴」なしで挑んだ平成21年総選挙で初当選以来、連続4期当選

- ▶民進党では予算委員会理事、党青年局長、政調筆頭副会長、国対副委員長を歴任。
- ▶国民民主党では、幹事長代理、国会では予算委員会、厚生労働委員会、消費者特別委員会に所属。
- ▶国民民主党では、幹事長代理に就任。
- ▶小学生と幼稚園児の2人の男の子のパパ。ニックネームは「オニケン」